

科目名	小児看護学概論	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	前期	30時間	2単位
学習目標	1 小児看護の対象となる子どもの特徴を理解する 2 小児と家族の概況を諸統計から理解する 3 各期の子どもの特徴に応じた看護を理解する 4 子どもと家族を取り巻く社会の変遷と児童福祉・母子保健施策などの関連を学び看護職の役割を理解する 5 病気・障害、入院などが小児・家族に与える影響を理解する				

授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1～2	小児看護の特徴と理念	1 小児看護の対象および目標・役割 2 小児と家族の諸統計 3 小児看護の変遷 4 小児看護における倫理および小児看護の課題	講義
3～4	子どもの成長・発達	1 成長・発達とは 2 成長発達の進み方・成長発達に影響する因子 3 成長の評価・発達の評価	講義
5	子どもの栄養	1 子どもにとっての栄養の意味 2 子どもの食育・食事摂取基準 3 発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護	講義
6～8	各期の子どもの特徴	1 新生児・乳児、幼児・学童、思春期・青年期の子どもの成長・発達、健康、家族、看護	講義
9	家族の特徴とアセスメント	1 子どもにとっての家族とは、家族アセスメント	講義
10～11	子どもと家族を取り巻く社会	1 児童福祉、母子保健、医療費の支援、予防接種、学校保健、特別支援教育、臓器移植法	講義
12～14	臨床における看護	1 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 (1) 病気・障害の影響 (2) 子どもの健康問題と家族 2 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 (1) 入院中・外来 (2) 在宅療養 (3) 災害時 3 子どもにおける疾病の経過と看護 (1) 慢性期・急性期・周手術期・終末期の子どもと家族の看護 4 障害のある子どもと家族の看護 (1) 障害のとらえ方 (2) 家族の特徴と社会支援	講義
15	試験(90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論	奈良間 美保 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学[2] 小児臨床看護各論	奈良間 美保 他	医学書院
	国民衛生の動向		厚生統計協会
参考図書・資料等	DVD 目で見る子どもの保健 成長・発達編 Vol.1 成長(発育)・発達と保健		
評価方法	筆記試験・平常点(レポート・出席状況など)を総合的に評価する		

科目名	小児看護援助論 I	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	2年次	後期	30時間	1単位
学習目標	健康障害や疾患をもつ子どもと家族への援助方法を理解する				

授 業 計 画					
回数	項目	内 容			方法
1～2	ネフローゼ症候群の子どもの看護	1 病態の理解と看護 2 経過別看護 (1) 急性期、回復期、症状消失後、退院に向けて (2) 家族への援助・学校との連携			講義
3～4	川崎病の子どもの看護	1 病態の理解と看護 2 経過別看護 (1) 急性期、回復期 (2) 家族への援助			講義
5	食物アレルギーの子どもの看護	1 食物アレルギーの子どもの看護 (1) アレルギー症状に対する看護 (2) 予防と日常生活における注意			講義
6～7	気管支喘息の子どもの看護	1 気管支喘息の子どもの看護 (1) 病態の理解 (2) 喘息発作への対応 ア 理学療法 (腹式呼吸・排痰) イ 薬物療法 ウ 吸入療法 エ 酸素 オ 輸液療法 (3) 予防 ア 環境調整 イ 運動療法			講義
8～11	感染症の子どもの看護	1 感染症の子どもの看護 (麻疹、無菌性髄膜炎、百日咳、ロタウイルス感染症、ノロウイルス感染症、乳児難治性下痢症) (1) 病態の理解 (2) 治療・処置別看護 (3) 日常生活指導と家族への援助			講義
12～14	低出生体重児の看護	1 病態の理解 2 胎外生活への適応を支える看護 (1) 体温調節、呼吸の調整、循環の調整、水分・電解質の調整 (2) 低血糖予防、感染予防 3 成長・発達を支える看護 (1) ふれあい・安楽な姿勢の保持 (2) 授乳 (3) 環境調整、支援体制の整備、家族への援助			講義
15	試験 (90分)				

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論	奈良間 美保 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論	奈良間 美保 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験・平常点 (レポート・出席状況など) を総合的に評価する		

科目名	小児看護援助論Ⅱ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	後期	30時間	1単位
学習目標	1 子どものアセスメントに必要な知識と技術を理解する 2 子どもの症状に応じた看護、検査・処置を受ける子どもの看護を理解する 3 小児看護における看護過程のプロセスを理解する				

授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方法
1～2	子どものアセスメント	1 アセスメントに必要な技術 (1) コミュニケーション (2) バイタルサイン、身体測定 2 身体的アセスメント	講義・演習
3	症状を示す子どもの看護	1 小児の主な症状と看護 (1) 不きげん、啼泣、痛み、チアノーゼ、ショック、けいれん、発熱、嘔吐、下痢、便秘、脱水	講義
4～6	検査・処置を受ける子どもの看護	1 検査・処置総論 2 薬物動態と薬容量の決定 3 検査・処置と看護 (1) 与薬、輸液管理、輸液管理 (2) 抑制、検体採取 (3) 排泄 4 呼吸困難の緩和 (1) 吸引 (2) 酸素療法 (3) 吸入療法 5 救命処置 (1) 意識・呼吸状態の観察 (2) 心肺蘇生法、気道確保・人工呼吸法、気道内異物除去	講義・演習
7～8	白血病の子どもの看護	1 病態の理解 2 経過別看護 (1) 確定診断から治療開始 (2) 初期寛解から治療終了 (3) 入院治療終了、外来通院開始 (4) 再燃・再発 (5) 家族への援助	講義
9～14	看護過程	1 演習事例 白血病をもつ子どもの看護 (演習：「入院中の遊び」含む)	講義・演習
15	試験 (90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論	奈良間 美保 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論	奈良間 美保 他	医学書院
	写真でわかる小児看護技術アドバンス		インターメディカ
参考図書・資料等	DVD 目で見える子どもの保健 病気編 Vol.2 感染症 Vol.3 免疫とアレルギー疾患		
評価方法	筆記試験・平常点 (レポート・出席状況など) を総合的に評価する		

科目名	小児看護学実習 2単位 90時間
-----	-------------------------

実習目的	小児看護の対象である子どもの特徴を理解し、成長・発達段階及び健康状態に応じた看護実践に必要な基礎的能力を修得する
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児期の子どもの成長・発達の特徴及び子どもとのコミュニケーションの方法を理解する 2 学童期の子どもの成長・発達の特徴及び学校における健康の保持・増進活動を理解する 3 成長・発達に不安のある子どもと家族への支援について理解する 4 入院している子どもの成長・発達段階と健康状態及びその家族について理解する 5 健康障害のある子どもとその家族に必要な援助を実施する 6 外来における看護の特徴を理解する 7 NICUにおける看護の特徴を理解する